

多摩支部会報

平成28年迎春号

平成28年1月7日発行

明治大学校友会
東京都多摩支部

支部長 西山強

広報委 飯田光宏



写真提供 日野一江面氏

西山 強 支部長ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年、多摩支部は全体の隅々まで校友会の声が届けられる21地域支部の日本一の大きな輪が出来上がった、記念すべき年だったと思います。これも組織委員会の努力と地元校友の母校愛の賜だと厚く感謝申し上げます。

全国滋賀大会には多くの校友のご参加を頂き誠にありがとうございました。

さて、明治大学は長期ビジョン（世界へ国際人の育成と交流のための拠点、世界で活躍する強く輝く「個」を育てる教育研究の実現）に向けて、国際大学との連携、アセアンセンター開設、スーパーグローバル大学創設支援事業の採択等、国際化戦略を進めています。一方、ラグビーでは関東大学大会での優勝等がありましたが、昨年暮れから法科の不祥事、年頭の全国ラグビー大会での準決勝での惨敗、箱根駅伝ではシード権が取れなくて、出だしは余り良くありませんでしたがこれらに負けず、明大のモットー「前へ」進んで行けばトップユニバーサルに成ることを確信しております。

一方、多摩支部では地域支部設立を見えますと、八王子地域支部設立・1912年から2015年瑞穂町の福生地域支部への併合完了まで、103年の長い歳月の流れはありましたが、2003年・新制多摩

支部（10地域支部）誕生からは11年で11地域支部が新たに誕生し、猛スピードで日本一の支部が誕生しました。これは前記した通り明治のモットーの「前へ」精神の校友の母校愛が高まった結果だと厚く感謝しております。

多摩支部を更に飛躍するためには次の三つを進めて行きたいと考えています

1. 各地域支部の質の向上をはかって行く
各地域支部、「個」の質を高めて頂き、各行事に近隣の地域支部へ呼び掛け、お互いに知恵を絞り大きな輪で取り組んでいく（マイナーからメジャー型へ）。
2. 女性を含めた若者の参加。
女性（若者）等に各行事の役割（司会等）をお願いし、参加意識を高めて頂く。
趣味等を含めたグループ作りを援助して行く。
3. 情報のスピードアップをはかる。

WEB委員が制作した情報システムと紫紺ネットを活用する。

今年は申歳です。「笑う門には福来たる」といって、福という天運に愛されているのが猿だそうです。我々も各地域支部の特長を生かし、福を頂き、校友の絆を強くし「明治はひとつ」の旗のもと、「輝く多摩家族」と呼ばれる支部を創っていきましょう！

1月2日
午前8時

一斉にスタート

前列中程のM

明治大学

横手選手

1区2位

写真提供

日野地域支部

江面利和氏



柳澤正長 幹事長 ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。
校友の皆様にかかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年の定期総会において、幹事長の指名を受け、早くも新しい年を迎えたところで御座います、昨年は多くの方々にお世話になり厚く御礼申し上げます。

明治大学は本年1月17日に創立135周年を迎えます、その間、50万人を超える卒業生を輩出しております。現在、およそ32万人の校友を有しております。明治は一つの精神のもと大学、教職員、学生、父母会、校友会がともに手を携え、未永く明治大学発展のために尽力できれば素晴らしいと思っております。

新春の恒例行事であります第96回箱根駅伝が2日快晴の下、読売新聞社前をスタートしました、明治大学競走部は前年第4位の成績を取め、大いに期待されておりました、予想通り第1区はトップに僅差の第2位で鶴見の中継所を通過、第2区も上位を確保し、今年は昨年を上回る記録が出るかと期待しましたが、その後、大いに奮闘するも3,4,5区が順位を落とし、箱根芦ノ湖へはトップより17分あまり遅れてゴールイン、第17位の成績で、明日の復路に期待を込めておりました。

明大の監督も明日の復路で5分タイムを縮

め来年のシード権を確保したいとコメントしておりました。

翌3日午前8時10分、芦ノ湖を一斉スタート、5分の差を取り戻すため5人の選手が健闘するも及ばず残念ではありますが有楽町のゴールには総合第14位、シード権の確保はできませんでした。

来年の箱根駅伝にエントリーするには昭和記念公園で開催される予選会を経ての出場となります。

秋に行われます予選会、昨年はなんと49大学が10のシード権をめぐる参加をしております。この中には箱根駅伝の常連校でありながらシード権を失い予選会に出場する大学もあり、出場権を獲得するのは至難の業であり、明治大学も過去に何度となく涙をのんだことがあります。来年の箱根を目指し、選手諸君も練習を積み挑戦していただきたいと思っております。多摩の校友も秋の昭和記念公園での予選会には必ず応援に参ります。

平成28年度多摩支部総会は7月10日（日）に立川グランドホテルにて公開講演会を合わせて予定しております、校友の皆様にかかれましては万障繰り合わせの上御出席頂きますようお願い申し上げます。

結びにあたり、校友の皆様におかれまして、新しい年が幸多き年でありますよう祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

どうした明治！ ーから出直せ

全日本並みの鍛錬を

ガツクリしたぜよ



第92回東京箱根間往復大学駅伝競走の復路が1月3日、箱根・芦ノ湖～東京・大手町の5区間・109.6kmのコースで行われ、明治大学体育会競走部は復路9位、5時間37分17秒のタイムでゴール。往路・復路を合わせた10区間の総合記録は11時間20分39秒となり、総合14位でレースを終えました。総合優勝は青山学院大学（10時間53分25秒）でした。

箱根・芦ノ湖を一斉にスタートした6区・小川選手は、往路の遅れを取り戻すべく序盤からスピードを上げたものの、後半ペースダウンし襷をリレー。しかし、**7区・牟田選手が区間3位となるタイムで8人抜き**の走りを披露し、先行するチームとの差を縮めます。8区・吉田選手もこの勢いを維持し15位まで順位を上げると、続く9区・齋田選手も区間4位のタイムで12位まで浮上。アンカー・山田選手はハイペースでシード圏内の10位を目指しましたが届かず、14位でレースを終えました。（明大広報より転載）

ラグビー大学選手権

大学日本一への道は、準決勝で絶たれた。5年ぶりに正月の舞台に登場した明治だったが、東海大に逆転負けを喫した。前半は試合を優位に運び19-7とリードして折り返すも、後半は一転して東海大ペースに。後半28分に逆転されると、33分にトライを奪われ突き放された。反撃したい明治だったがミスやペナルティーが重なり後半はノートライ。19-28でノーサイドとなった。これで「リバイズ」を掲げた中村組の挑戦が終わった。（明大スポーツより転載）写真一江面氏





平成28年正月2日、快晴に恵まれた関東地方、午前8時00分、第92回東京箱根間往復大学駅伝競走往路の号砲が鳴った。母校明治を含む20校及び学生連合の21チームの若武者が一斉に箱根を目指して飛び出して行った。ここ3区地点「藤沢」国道交差点近くの会計事務所駐車場に集合した町田地域支部会員は、藤沢地域支部のご接待の甘酒をたっぷり頂き、好みの撮影ポイントに離散。

やがて先導車が通過し上空にはヘリコプターがホバーリング。2台の自バイが通過し「青山」が走り去る。暫く間が空いたのち、2人の選手が競り合うように並走してきた。「明治」と「駒澤」だ。4位・5位争いか。アっと云う間に通過していった。写真を撮っていると残念ながら発声しての応援は出来なかった。上位を期待して町田に帰り、いつもの居酒屋で新年会。途中、往路の結果そしてなんとも悔しくガックリきたラグビーの惨敗を聞く!!

復路でも順位を落とし、シード権も失うところとなった、残念無念!!一から出直した!

(多摩支部広報一飯田光宏)



8人抜きの力走 7区 牟田選手

牟田 祐樹 (むた ゆうき)

学部・学年 農学部4年

出身高校 西武学園文理 (埼玉)

10,000m記録 28分43秒20

ハーフマラソン記録 1時間02分40秒

好きな言葉、

または座右の銘

どんな一歩も無駄にはならない



藤沢応援拠点

